

目録管理と OPAC

2013.7.16

松山 巖（玉川大学）

◆課題

ある特定の公立図書館を選び、その Web OPAC システムについて、検索機能、表示機能、ヘルプ機能等の現状報告を行い、評価を加え、改善点を述べてください。

◆詳細事項から一部分まとめてみた

(3) OPAC システムの基本的情報

現行システムの稼働開始時期： 2008～2010 が多い。1990 年代（？）が 2 件。

パッケージソフトのメーカー：

NEC 5（LiCS-WEB II×4, LiCS-R III×1）

三菱 2（MELIL）

京セラ丸善 1（ELCIELO）

日本電子計算 1（LINUS）

まちづくり三鷹 1（Ruby 図書館情報システム）

日立 1（LOOKS21/P）

ちなみに昨年は 20 館中 7 館もいた富士通系（iLisWing21 など）はなんと 0 館でした。

(6) 文字処理の詳細：「再現率と精度のトレードオフ」にかかわる。

再現率を上げれば（＝漏れを少なくすれば）精度は下がる（＝ノイズも増える）

精度を上げれば（＝ノイズを減らせば）再現率も下がる（＝漏れも増える）

形態素解析： 公共はしていないところが多い。→たぶん n -グラム方式

「ウキヨエ」で「世界のマーチ」の CD が、「とんち」から『かもめ評釈』がヒットしたりする
大学はしているところが多い

国会は今でも読みデータは分かち書きしているが…

CiNii Books で読み検索：タイトル＝ハウソウダイガク→0 件，ハウソウ ダイガク→6901 件

ちなみに Webcat plus では：タイトル＝ハウソウダイガク→206 件，ハウソウ ダイガクとしても同じ

“読みの規格化”

濁点・半濁点は同一視するところと区別するところがあるが、利用者としては区別して検索したい場合が多いのではないか。少なくとも省いて入力しているのを見たことがない。

促音・拗音は直音と同一視が多い。

長音記号は無視して検索が多い。

これらの同一視によって、外来語（例 フィルム／ファイルム、コンピュータ／コンピューター）や外国の固有名詞の場合はある程度表記の揺れを吸収できるというメリットもあるが、近頃の検索対象資料数の急増と相まって、和語・漢語の場合はいたずらにノイズを多くするばかりと言えないか。

同一視する場合、「山田純平」に対して「ヤマタシユンヘイ」という文字列をどのレベルで与えるか
書誌情報の一要素である「ヨミ」として与えるか
ヨミはあくまでヤマダジュンペイとしておき、索引レベルで生成するか

お墓の本を探そうと思ったら、馬鹿の本まで出てくるのは嬉しいだろうか。

館内 OPAC の中には、タッチパネル式端末に五十音表が出て来るが、画面の広さの関係で濁音・半濁音・拗音・促音の入力には表を切り替えないといけないというところもある。そこまで苦労して入力させておきながら、検索結果では同一視というのは、利用者を馬鹿にしていないか。どうしてもそうするしかないのなら、せめて「濁音・半濁音なしで入力しても検索してくれる」ぐらいの注意書きが欲しい。

カタカナ表記法特有の規定の扱い（ヂ・ヅ、助詞のハ・ヘ・ヲなど）

NCR のカタカナ表記法は、本来、カードや冊子体上の書誌記述等を排列するための規則である。

かつて歴史的仮名遣いが一般に用いられていたころ、正しい仮名遣い（特に字音仮名遣い）で辞書や索引を引くのは（今の人よりは慣れていたとはいえ）案外難しかったと思われる。戦前のレファレンスツールを利用する際になどに実感する方も多かろう。そのような背景で、標目に字音仮名遣いが採用されたのは理解できる。

しかし、1946 年に現代仮名づかい（1986 年に改正されて現代仮名遣い）が制定されて 70 年近く経過し、今やすっかり人々の間に広く定着したと言ってもいいであろう。NCR の仮名遣いとの違いは、いわゆる 4 つ仮名（ジ・ヂ・ズ・ヅ）と助詞のハ・ヘ・ヲだけといってよい。このような一般の人にとって違和感のある仮名遣いをツズケル必要があるのか、議論すべきではなからうか。

とりあえず現行での対応。ヂヅヲに関しては、これらの文字が入力されたら、自動的にジズオに変換すれば解決（何もしないシステムもあるがあまりにも不親切）。問題は助詞のハ・ヘである。

検索の際、助詞に限定した扱いは難しいだろう。だからといって「へび」で入れたら「美しきエビとカニの世界」までヒットする（江東区、新宿区など）のはどうか。

ちなみに国会。タイトル＝イソヅリ 1 件（それも雑誌記事索引）、イソズリ 96 件。徹底している。

そもそも読み検索ってそんなに必要か？という議論も…

例：2010 年の渡邊先生レジュメ

・「ヨミ検索」の位置づけは、今後再検討が必要かも

もともと、カード目録・冊子目録の「排列」のために「標目はヨミ形で」

OPAC でももちろん一定の意味

漢字かな混じりの入力は大変

再現率の向上(表記形は文字種や字体などにゆれ)

しかし現在では

コンピュータリテラシーの向上(ワープロ入力は自然なこと)

再現率の低下?(ヨミの付与されていない項目も検索対象となる場合)

→ 利用者をどう誘導するべきか?

曖昧検索/厳密検索が選べるか…まだこれから。

異体字の処理…辞書に依存, まだのところが多

書誌データとして与えられていれば対応する, ということはあるが, 本来なら異体字辞書で対応すべき

国会や大学に比べると, 多文化サービスの立ちおくれが目立つ。特に非欧米系言語。

(10) 館内 OPAC との比較。具体的には,

iii) ユーザインタフェース:

画面(テキスト/グラフィカル) さすがに(利用者用で)テキスト画面はないのでは。

入力方法(キーボード/タッチパネル/マウスなど)

漢字変換の有無…タッチパネルでも漢字変換ができるところが増えてきたが, まだのところも。

せっかくこども画面があっても, 同じ用語をひらがな表示にただけとか, 検索結果は大人用と同じとか。(読みを入力しているのだからせめて活用したい)

v) 印字できるか

おおむね, 詳細画面から全て印字可能/予約したいときに限り印字してカウンターに持って行く/いっさい印字不可能 の3パターン

vi) 設置箇所によって設定が異なるか

児童コーナーではデフォルトがこどもモードとか

その他気づいたこといろいろ

検索対象

図書と逐次刊行物は厳密に区別しがたい面もあるので統合で良いだろうが, AV や地域資料などは, デフォルトからは外す(必要なときにチェックを入れる)ほうがよいのでは。

国会の新しい OPAC のように雑誌記事索引まで含めてデフォルトでは全選択になっているのはどうみてもいただけない。All in one でたくさん漏れなく出て来て良かったと思っている利用者よりは, ノイズの山に埋もれて困っている人の方が多いのでは。

たぶんそういうことをいうと「それはまだ OPAC といったら在庫管理, という発想から抜け切れてい

ない証拠。これからは情報の宇宙へのポータルに脱皮して云々」などと言われるのだろうが、図書を探したいときと雑誌記事を探したいときでは心の持ちようが違う。両方ほしいときは自分でチェックするから、余計なお世話はしてくれなくていいよという感じ。

書誌階層

巨大なセットものが物理単位で表示され、「次画面へ」を10回も20回も押さないとお目当ての本にたどり着けなかったり。特に館内OPACは1画面の表示数に制約があるのでなおさら。

「シリーズ」で書誌、「それを構成する各巻」のそれぞれにも書誌、両者の間で相互にリンク、とできればそれだけでもかなり楽（旧Nacsis-CATとか）

CiNiiでは「関連文献」か「親書誌ID」をクリックするようになった。一般の利用者は気づくかなあ。「展開」「折りたたみ」のほうが分かりやすいかも。

検索範囲

検索項目によくある「キーワード」とはどのような検索をいうのか？

いろいろなフィールドにまたがって探してくれるらしいことは分かるが…

そもそも利用者はどう理解しているだろうか。

「タイトル」には内容細目やシリーズ名も含むのか？（利用者的には含んで欲しい）

「責任表示」も同様。

検索の基本機能について

遡及変換…公共図書館では一気にOPAC化

大学・国会は少しずつ

検索速度

昔はヒット数の多い語を入れると数分間待たされたりした（索引ファイルが作られておらず逐次探索していた？）。今でも件数が多いと遅くなることもあるが、「件数+最初の10件（25件）」とかならずぐに出ないか。googleなど1億件ヒットしても最初の10件ぐらいはすぐに出る。

ブール演算、トランケーション

ヒット数が多かったとき、絞り込みでnotが使えると良い

基本は、(A or B or …) and (X or Y or …)ではないか

例) 地震の際のストレス

まず、「地震」「ストレス」のANDを想起

それぞれに、ORのバリエーション（「震災」や「PTSD」）を

これができないと、有効性は減衰

中途半端に枠を設けるよりは、演算子入力でよいかも
もし枠を設けるとしたら、

地震 震災	いずれかを含む▼	and▼
ストレス PTSD	いずれかを含む▼	

のようになるのだろうが，確かに検索式をじかに書いてしまった方が楽で分かりやすいかも知れない。

(以下，2010年の渡邊先生のレジュメに若干加筆。一から書き直そうとしたのですが，結局言いたいことがほとんど同じで，似てきてしまうのです。渡邊先生すみません)

●少し高度な検索機能

典拠コントロール

- ・例：90年代の岩波「漱石全集」(奥付の表示が「夏目金之助」)
→「夏目漱石」で検索できないシステムも
- ・システムよりも MARC データに起因

内容情報の増強

- ・内容細目，内容紹介，帯情報，著者紹介等
急速に広まっている(大学図書館と比べても) …民間 MARC の強みか。
ただ，表示のみで検索対象としないケースも(もったいない)

主題検索のサポート

- ・同義語辞書
BSH など件名標目表，シソーラス構造の利用も
追加，メンテナンス(地域特有の語など)もできるべき
- ・分類表(NDC)の利用
選択肢が見えるのは便利だが，要目表どまりが多い
NDCの名辞そのままでもいいか
他のアクセスポイントとの掛け合わせをしたい(J-BISCのように)

入力サポート

- 誤入力の訂正
- 検索エンジンの親切さ(時には余計なお世話)に慣れている利用者には，ぶっきらぼうに感じられるかも

●表示機能とナビゲーション

一覧表示とソート

- 一覧表示に求められるもの

既知資料の検索

それほど重要ではない（それほどヒット件数は多くないはず）

未知資料の検索

一覧表示から目指す資料を選択する必要

→ ある程度の情報量と一覧性がともに必要

- 一覧表示の限られたスペースに何を出すのか

「最初の著者だけ」仕様がけっこうある → 「ほか」と出したほうが…

タイトル関連情報, シリーズ名をどうするか

出版年を出さないシステムも見受けられる

入手可能性（在架かどうか）もある程度わかると

よい

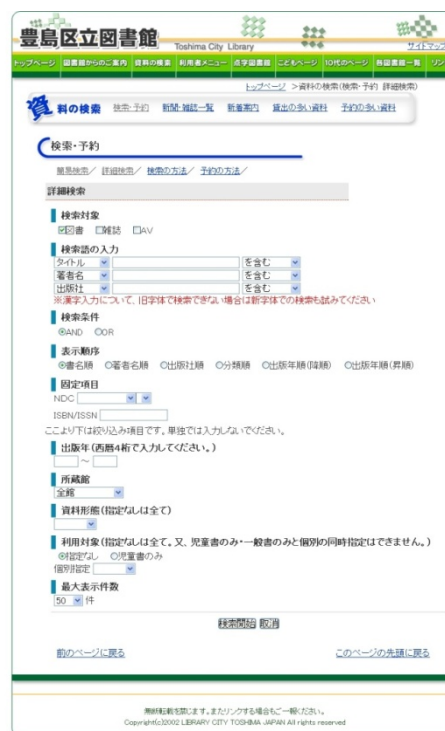
- ソート機能は案外充実（大学図書館よりも？）

検索画面での選択でもよいが、一覧表示段階で切り替えられるのが望ましい

（ちなみに右図は豊島区立（サン・データセンター CLIS/400）。検索条件がラジオボタンで一括指定。また表示順序も予め指定できる）

検索エンジンのような「レlevanceによるランキング表示」の可能性

特に大規模蔵書の場合、内容情報が充実してきた場合



- 一覧表示の一画面出力件数

相当の件数を一覧していくことが（絞り込み検索より）有効な場合も

→ 初期設定は 10~20 件でも、100 件程度までは拡張できるとよい

検索画面での選択でもよいが、一覧表示段階で切り替えられるのが望ましい

- 入力された検索語

一覧画面で表示すべき（誤りなどもわかる）： 対応システムはむしろ少ない

検索画面に戻ると入力キーワードが消えるものも珍しくない（国会も）

- 絞り込み検索

一覧画面でできるとよい

できなくとも、入力状態を保持した検索画面へ戻れるように

書誌情報の詳細表示

- ・必要最小限の項目 vs. 全部出す
絞り込みすぎの感のあるシステムも
ブラックボックス（なぜヒットしたのかわからない）→ 無用の不安感
検索対象とするなら、詳細表示に出すべき
- ・ハイライト表示
広まっていないが、有用性は非常に大きい
（特に、内容紹介など検索対象項目が拡張された場合）
インターネット検索エンジンと対比して

その他

- ・協調フィルタリング（レコメンデーション）

ナビゲーションのための配慮

- ・画面の統一性
- ・そこに至る経緯を表示すべき
何で検索してそこへ到達したのか
- ・検索履歴の再利用（どれだけ有効性があるか）
- ・ハイパーリンクの有効活用（検索結果の再利用）
著者や件名をクリックすると当該の一覧表示に…ある程度広まってきた
典拠コントロールとの関係
著者名典拠がきちんとできていないと逆効果の場合も

雑誌検索のナビゲーション

- ・大学図書館ではほぼ統一：『学術雑誌総合目録』の伝統
検索→ 書誌情報（雑誌タイトル単位）→ 包括所蔵（例： 1-3,6-13+ ）
→ 物理単位（新着巻号、製本情報）
- ・公共図書館ではまちまち
いきなり物理単位でなく、雑誌タイトル単位を介すべきでは？
（物品としての管理に傾斜しすぎ）

図書でも、きちんと書誌階層の管理ができていないと、セットものが物理単位で延々と表示されるのにつきあわされたりする。

●ヘルプ機能など

ちゃんと書くべき

「ヘルプなしで使えるシステムが理想」「そんなに読んでくれない」は正しいが…
それでもきちんと書くのが提供者の責任

カスタマイズしたのにヘルプはもとのまま…（論外）

絶対に、司書が書くべき

メーカーに「わかりやすいヘルプ」を要求しても無理

随時書き換えられる仕様を要求

新しいシステムに対して、動く前に完璧なヘルプは書けない

用語の使いかた・説明のしかた

本当に難しい…

多少長くなっても、例示を入れるべきでは

ヘルプの単位

ピンポイントで示せ、かつ通読もできるのが望ましい

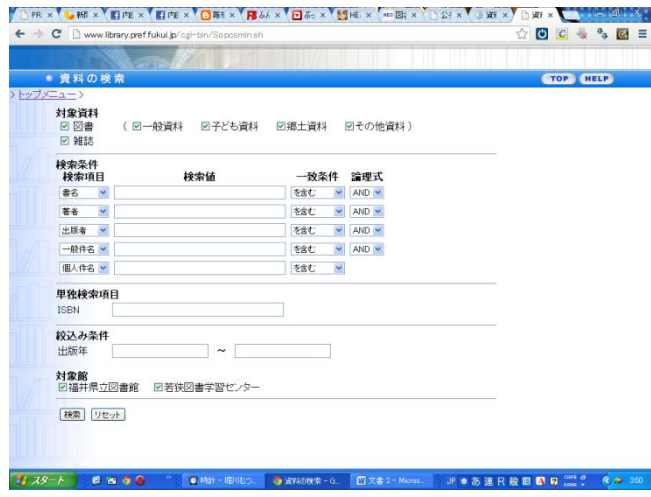
画面上の言葉づかい

細かい言葉も意外に大事

「著者」「キーワード」…（明快な解は難しいことも多い）

ヘルプを自分で書いてみると、問題点がわかるのでは

富士通 iLiswing21 系は、検索条件の表示が「検索項目」「検索値」「一致条件」「論理式」と専門用語むきだしなのことが多い。論理式も演算子がそのまま。左は稲城市立図書館、右は福井県立図書館。



● 「次世代 OPAC」？

「次世代」も重要だが、今の OPAC への注意も…

ベンダ任せでなく、専門職としての当事者意識を持って大小の問題に目を配る姿勢をとらないと、同じことの繰り返しでは